第１期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

名古屋工業大学

平成２３年５月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

（Ⅰ）教育に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、２項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）　「教育に関する目標」に係る中期目標（４項目）のうち、１項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　教育の成果に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画で「国際共通言語である英語による自己表現及び異文化理解ができる能力」を学生に身に付けさせるとしていることについて、TOEIC IP による英語能力別クラス編成のほか、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択され、「工学表現技術」科目における英語プレゼンテーション指導、少人数の集中クラスを実施していることは、語学力の一層の向上につながっているという点で、優れていると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

○　中期計画「先端的な専門技術能力、新しい分野を創造できる能力、経営能力などを身に付けるため、大学院への進学を促す」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、大学院

再編整備により、学生の大学院進学意欲を高め、学部卒業生（第一部）の大学院進学率が平成 20 年度は 66.8 %、平成 21 年度は 68.1 %（平成 16 ～ 19 年度平均：60.3 %）と向上していることから、「良好」となった。

②　教育内容等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（11項目）のうち、２項目が「良好」、９項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「良好」、９項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画で「「アドミッションセンター（仮称）」を平成 17 年度までに設置する」及び「工学を先導する魅力のある大学としての情報発信を充実させ、受験生の量と質を高める」としていることについて、工学教育総合センターの中にアドミッションオフィスを再編し機能が向上していること、及びオープンキャンパス参加者数・大学見学会対象高等学校数が着実に増加し、入学者の質が向上していることは、優れていると判断される。

③　教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況が良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、３項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「学内全施設の有効活用を推進するとともに、IT 化に対応した設備を充実する」について、PKI（公開鍵基盤）技術を基盤とする統合認証システムを実現していることは、出欠確認の効率化等、学生や教職員の利便性を向上させている点で、優

れていると判断される。

④　学生への支援に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、２項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「職業意識を高めるための教育を行うとともに、学生の資格取得のための支援を充実する」について、キャリアサポートセンター等によるキャリア教育の実績により現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択されるなど、キャリア教育及び資格取得支援の取組が十分に機能していることは、優れていると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】	**中期目標の達成状況がおおむね良好である**
（判断理由）	「研究に関する目標」に係る中期目標（２項目）のうち、１項目が「良好」、１項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況が<u>良好</u>である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（３項目）のうち、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画で「21 世紀 COE プログラム「環境調和セラミックス科学の世界拠点」の研究」に取り組むとしていることについて、年間 250 編以上の学術論文を創出、多数の共同研究を実施し、また国際連携大学院としてのセラミックス科学研究教育院を設立し、さらに国際共同研究を推進していることは、優れていると判断される。

○　中期計画「国などによる競争的・戦略的大型プロジェクトの資金獲得へと発展する研究に組織的に取組む」について、法人化後４年間で７件の学内研究推進経費・研究課題が６件の大型外部資金獲得（獲得金額３億 6,571 万円）に結実していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「平成 15 年度に設置した「テクノイノベーションセンター」を通じて、研究の成果を知的財産の創出に結びつける」について、特許権の出願・権利化を早期かつ経済的に行うため、名古屋工業大学研究協力会や技術移転機関である中部 TLO と連携してコア出願を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

②　研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】	**中期目標の達成状況が<u>おおむね良好</u>である**
（判断理由）	平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（６項目）のうち、１項目が「良好」、５項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。 平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、１項目が「良好」、５項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（１項目）が「良好」であることから判断した。

２．各中期目標の達成状況

①　社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】　中期目標の達成状況が良好である

（判断理由）　平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（７項目）のうち、２項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、２項目が「非常に優れている」、２項目が「良好」、３項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○　中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、ダブルディグリープログラム、ツイニングプログラム、国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム、アジア人財資金構想プログラム等を開設し、留学生数が法人化時点の 260 名から 330 名に増加していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

○　中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、国際貢献の一環として行っているアフガニスタンの戦後復興支援プログラムを実施し、専門教員の養成を支援していることは、特色ある取組であると判断される。

○　中期計画「外国人留学生については、多様な国・地域からの受け入れを図る」について、日本語準備教育を必要としない国費外国人留学生の優先配置を行う「高度研究者養成特別プログラム」、アジア人財資金構想「自動車工学スーパーエンジニア養成プログラム」を実施し、平成 19 年度にそれぞれ５名、10 名の留学生を受け入れていることは、特色ある取組であると判断される。